

桑原運輸の「ふかぼりSTORY」

愛媛新聞 4月15日掲載 5段 [H170×W380mm] 4c



愛を語ることも忘れない。

桑原運輸の本社社屋には、私たちと縁のある地を部屋名とするスペースが3つあり、その地をインテリアで表現しています。たとえばえんとつ山を壁に描いた会議室。これは郷土愛と従業員への想いをカタチにしたものです。ここが、働くみんなの心のふるさとになるよう日々努力を重ねていきます。

〈私たちの七つのこだわり〉この街で／人、会社を育ててもらった地元を愛し、地域に貢献していこう

えんとつ山に遺る「挑戦」のシンボル

燧灘、別子山、えんとつ山。これらは桑原運輸の本社社屋の部屋名です。

平成29年に社屋を新築した際、各スペースに私たちと縁のある地の名称をつけ、部屋名を表現するインテリアを取り入れました。

会議室「えんとつ山」の壁一面には、えんとつ山のある風景をモチーフとした絵を描いています。

えんとつ山というのは新居浜の人が親しみを込めて呼ぶ愛称で、本当の山名は「生子山(しょうじやま)」といいます。20分ほどで登れる標高約145mの山頂部に高さ約20mのレンガ造りの煙突が聳えています。

この煙突は明治21年(1888)に造られた旧山根精錬所のも

ので、国の登録有形文化財です。

旧山根精錬所では、銅の含まれる割合が低い鉱石を利用した製鉄が試みられていました。当時、これは大きな挑戦だったそうです。

えんとつ山の煙突は、日本の近代化の歩みを伝える遺跡であるとともに、新居浜における挑戦のシンボルだと思うのです。会社の歩みを重ねるなかで挑戦心を忘れたくない。アイデアがモクモクと湧いてきますように。そういった想いを込めた壁画ですが、会議室に集う人が絵を見て心をなごませてくれれば、それで十分です。



運ぶことは、贈ること。

桑原運輸株式会社
KUWAHARA TRANSPORTATION CO., LTD.